

2013 年度
明星学苑事業報告書（抜粋）

（2013 年 4 月 1 日から 2014 年 3 月 31 日まで）

学校法人明星学苑

2014 年 5 月

2013年度 明星学苑事業報告書

目 次

理事長あいさつ	1
I. 法人の概要	2
建学の精神・教育方針・校訓・明星学苑がこれからも変わらず目指すもの	2
各校の教育目標	2
各校の教育内容と教育方法	3
Action100 (省略)	
沿革 (省略)	
設置校および所在地 (省略)	
役員の概要 (省略)	
評議員の概要 (省略)	
学生数・生徒数 (省略)	
教職員数の推移 (省略)	
組織概要 (省略)	
II. 事業の概要	4
2013年度事業基本方針と進捗状況	
法人 (省略)	
明星大学	4
いわき明星大学 (省略)	
府中校(明星中学高等学校、明星小学校、明星幼稚園) (省略)	
卒業生の進路・就職状況	17
III. 財務の概要 (省略)	
2013(平成25)年度決算について (省略)	
経年推移比較 (省略)	
財務比率 (省略)	
学校法人の会計に (省略)	
別添資料	
1. 学生生徒等在籍者数 (省略)	2. 資金収支計算書 (省略)
3. 消費収支計算書 (省略)	4. 貸借対照表 (省略)
5. 財産目録 (省略)	6. 監査報告書 (省略)

「グローバル時代と明星教育」

理事長 吉田 元一

明星学苑は、2023（平成 35）年に、現在の明星中学高等学校の前身である明星実務学校創立から数えて 100 周年を迎えます。本学苑は、来るべき 100 周年をめざし、新しい「明星学苑ビジョン」を策定し、各設置校はこれに基づき、更なる発展に向けて新たな歩みを始めております。また、100 周年に向けての経営プランである「Action100」は、明星学苑の各設置校が教育機関としてのあるべき姿を教職員全員が意識しながら、心を合わせて取り組むべきアクションプランを示しています。

さらに、将来的に少子化の趨勢が予見されている中で、明星学苑が今後とも選ばれる私立学校であり続けるためにはどうあるべきかを全学的に検討していくための組織として、「将来構想委員会」を設置し、検討を進めているところであります。

現在日本を取り巻く環境は時々刻々と変化していますが、大きな時代の潮流はグローバル化の一層の進化になると思います。このような変化の時代に明星学苑は、「変わらざるもの」と「変えていくもの」をしっかりと認識対応し、人材育成、あるいは社会に貢献する学問研究の場として社会の要請に応えてまいります。

明星の建学の精神は、「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」であります。

明星教育を受けた卒業生が、世界に貢献できる人材となるには、明星学苑で何を学ばせなければならないのか。これからの時代を生きる若者に、人格・教養を身につけさせる教育はどうあるべきか。明星教育は、これらの視点に立ち、常に進化していかなければなりません。

これからも、明星学苑は、世界でも日本でも通用する人材を育成する学校であることをめざしていきたいと思っております。

I. 法人の概要

●建学の精神・教育方針・校訓・明星学苑がこれからも変わらず目指すもの●

<建学の精神>

「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」

【教育方針】

1. 人格接触による手塩にかける教育
2. 凝念を通じて心の力を鍛える教育
3. 実践躬行の体験教育

【校訓】

健康、真面目、努力

《明星学苑がこれからも変わらず目指すもの》

明星学苑は、建学の精神である「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」ことをもって社会に寄与することをその使命とする。

そのために、学苑が設置する学校は、校訓「健康、真面目、努力」を旨とし、一人ひとりの学生・生徒・児童・園児を大切にして徳育・知育・体育の調和を目指す「人格接触による手塩にかける」教育を行い、着実に教育の成果を上げることに努める。

●各校の教育目標●

明星大学	自己実現を目指し社会貢献ができる人の育成
いわき明星大学	全人教育に基づいた、地域社会に貢献できる人の育成
明星中学高等学校	自律心を持った自立した人の育成
明星小学校	正直なよい子の育成
明星幼稚園	よい子の育成

●各校の教育内容と教育方法●

<p>明星大学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●現代社会に生きるものとして必要不可欠な基本的知識と技能の習得 ●幅広い教養を身につけた自立する市民の育成 ●心と体の健康管理の教育 ●高度専門職業人及び幅広い職業人の育成 ●体験教育を通して生涯に亘る学習意欲を獲得し、自らの歴史を綴ることができるようにする教育
<p>いわき明星大学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●大学で学ぶ意識を高める少人数・演習形式の初年次教育 ●さまざまな学修歴をもつ学生に対応した効果的な基礎教育 ●時代を見据え、地域に根ざし、体験を通して学ぶ専門教育 ●専門を超えた探究心と充実した心身を育む教養教育 ●きめ細かな個別指導と快適な自習環境の提供による学習支援
<p>明星中学高等学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●凝念教育 ●3ステージ制による6カ年一貫教育 ●文化等の違いを体験し、国際理解を深める教育 ●地域社会との連携による教育(ボランティア活動等の体験教育) ●学苑設置校(幼・小・大)との連携とIT教育
<p>明星小学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●凝念教育 ●五正道(正しく視る、正しく聴く、正しく考える、正しく言う、正しく行う)の実践 ●豊かな心を育てる教育(心の教育、道徳・躰、体験学習、きめ細かな生活指導等) ●確かな学力をつける教育(授業の充実、きめ細かな学習指導等) ●総合学園の特色を生かした教育
<p>明星幼稚園</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●「みなしずか」(凝念)の実践 ●一人ひとりを大切にされた保育 ●体験を通して学ぶ ●年齢に応じた基本的生活習慣の確立 ●総合学園の特色を生かした保育

※“凝念”とは、静座して目を閉じ、雑念を取り払い無念無想の境地に身を置くこと。

Ⅱ. 事業の概要

●2013（平成 25）年度事業基本方針と進捗状況●

明星大学

1. 基本方針

明星大学は、設置者である学校法人明星学苑の建学の精神に基づき「自己実現を目指し、社会貢献ができる人の育成」を教育目標とし、「教育の明星大学～学生生活を主体とした教育の明星大学として、教育界に確固たる地位を築く」ことをヴィジョンとして掲げ、学苑の高等教育機関として学部学科においては学士力の獲得、大学院においては高度専門職業人や研究者の養成を柱に、以下の教育方針に基づき教育研究活動を展開しています。

（明星大学の教育方針）

- 現代社会に生きるものとして必要不可欠な基本的知識と技能の習得
- 幅広い教養を身につけた自立する市民の育成
- 心と体の健康管理の教育
- 高度専門職業人及び幅広い職業人の育成
- 体験教育を通して生涯に亘る学習意欲を獲得し、自らの歴史を綴ることができるようにする教育

今年度の事業展開にあたっては、本学の教育研究活動を通して本学が永続的に存続出来る基盤を確立していくために、2015（平成 27）年度までに達成すべきロードマップを策定し、それに向けての活動を行いました。活動のベースとなるのは、2010（平成 22）年度から全学展開している MI21 プロジェクト（Meisei Innovation for the 21st Century）活動※に基づくものです。

※ MI21 プロジェクトは、中長期的な重点戦略（目標）間の関係を明らかにした、「全学戦略マップ」を基に、「バランス・スコアカード」を活用し、各戦略の具体的な成果目標を定め、PDCA サイクルを回しながら事業を展開する、全学的な取り組みです。

この取り組みは、2012 年度の文部科学省補助金事業「未来経営戦略推進経費（経営基盤強化に貢献する先進的な取り組み）」に採択されました。

2015（平成 27）年度に向けたロードマップに掲げた目標の現時点（平成 25 年度末）の達成状況は次の通りです。

（1）進路決定率（目標：90%以上）：

インターンシップ参加者数の増加、学内企業セミナーの機会拡大、教職員の連携強化及び各種就職ガイダンス・講座などの支援体制を強化した結果、進路決定率は全学で昨年度の 70.1%から 75.0%に、また、就職内定率も昨年度の 94.2%から 95.0%と昨年度を上回ることができました。

(2) 志願者数 (目標 : 20,000 人以上) :

オープンキャンパスの充実や高校ガイダンスへの積極参加による、受験生や進路担当者との接触機会の拡大等や、「教育の明星大学」をアピールする広報活動の充実などにより、本学の認知度向上を図った結果、スカラシップ入試を除く一般入試及びセンター利用入試の志願者数は、昨年度の 15,621 人から 15,622 人に増加し、2010 (平成 22) 年度の改組改編以降 5 年連続で増加しています。

(3) 離籍率(目標 : 4.0%未満) :

授業の質の向上や学生生活全般 (学習面、経済面、精神面) への支援体制を充実させた結果、全体では昨年度の 6.5%から 5.5%へと前年より 1.0%の改善が図られました。

(4) 科学研究費補助金獲得額 (目標 : 私学上位 50 位以内) :

昨年度より、科研費応募に向けた啓発活動の強化や応募支援体制の充実を図ったものの、2013 (平成 25) 年度の新規応募件数は 110 件から 94 件、交付額では約 8,300 万円から約 6,800 万円と前年比 20%減となり、私学の中では 101 位 (昨年 89 位) でした。

このため、科学研究費補助金の獲得にあたっては、教員の研究全体をコーディネートする URA※を導入するなど、新たな研究支援体制の構築を図りました。

※ University Research Administrator の略です。大学等において、研究者とともに研究活動の企画・マネジメント、研究成果活用促進を行うことにより、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化等を支える業務に従事する人材を指します。

(5) 帰属収支差額比率 (目標 : 収入超過率 5.0%以上) :

今年度は、50 周年を契機とした積極的な募集活動や広報活動の充実、教育環境整備のためのキャンパス開発等の一時的な支出が拡大した結果、2013 (平成 25) 年度決算では-4.4%と昨年度の-1.9%を上回る支出超過となりました。

なお、「学生生徒納付金」収入が 10,662 百万円から 11,202 百万円へと増加しているため、一時的な支出を除いた場合、帰属収支は均衡します。

また、今後は新たに策定した 2014 (平成 26) 年度から 2018 (平成 30) 年度までの中期財務計画に基づき、予算配分・執行の更なる適正化を図ります。

【上記ロードマップ達成状況の経年推移は、25~27 ページの「明星大学ロードマップ 2008(平成 20)~2013(平成 25)年度 経年推移表」を参照】

2. 2013 (平成 25) 年度の重点課題

基本方針で示したロードマップ (達成目標) の実現に向け、以下の各事業を 2013 (平成 25) 年度の重点事業として、特に注力して教育研究活動を展開しました。各事業の取り組み状況は次のとおりです。

(1) 経営基盤確立に向けた改組改編の推進

①改組改編の推進

2014（平成26）年4月のデザイン学部及び教育学研究科の開設を目指し、2013（平成25）年6月文部科学省へ設置届出を行い、同8月文部科学省より正式に受理され、2014（平成26）年4月より順調に開学しています。

また、通学課程と併せて、通信制大学院人文学研究科も教育学研究科へと名称変更の届出を行いました。

②効果的な学生募集活動の展開（志願者確保に向けた取り組み）

受験生や進路指導担当者に対して「教育の明星大学」や「体験教育」等、本学の特色を直接アピールできる機会の拡大を図り、接触者数の拡大を図りました。

また、高校生への入試情報を提供するため、受験雑誌等への積極的な出稿やスマートフォン対応のホームページ新設、学部学科別のDM発送等、学生募集活動を積極的に展開しました。

	(昨年度)	(今年度)
・ 受験生接触者数	45,415人	→ 61,931人
・ 女子志願者数	4,925人	→ 5,722人
・ オープンキャンパス参加者数	11,600人	→ 11,700人
・ 高等学校訪問数（延べ）	412校	→ 677校

【その他の取り組み】

- ・ 大学案内を補完するための「るるぶ特別編集 明星大学」制作
- ・ 女子学生をターゲットとするオープンキャンパスの案内広告として集英社「Seventeen」7・9月号への広告掲載 等

③通信教育課程の充実

勤務経験等の要件を条件として、科目等履修生として保育士資格が取得できる制度や学校現場からのニーズの高い特別支援学校の教員免許取得に関して、新たに「免許法認定通信教育」を設け、2014（平成26）年度入学生からのから募集を開始しました。

	(昨年度)	(今年度)
・ 通信教育部入学者数（正科生）	1,970人	→ 2,120人
・ 通信教育部入学者数（科目等履修生）	881人	→ 1,006人
・ 入学説明会実施回数	52回	→ 62回

(2) 個別指導・支援体制の強化

①個別指導・支援体制の強化

全学的に学生支援体制を充実させるために、教職員間や関係部署間の情報共有を促進し、学生への個別面談を通して、学生の修学意欲の向上を図り、離籍者の抑制に努めました。

	(昨年度)		(今年度)
・ 離籍率【ロードマップ(3)】	6.5%	→	5.5%

②奨学金制度の充実

大学独自の奨学金として、「明星大学奨学金」「勤労奨学金」「同窓会奨学金」「スカラシップ入試奨学金」「修学支援緊急奨学金」「児童福祉奨学金」等の奨学金事業を展開し経済的支援を行いました。

また、オープンキャンパスや学内イベントにおける勤労奨学生の活躍を踏まえ、「勤労奨学金制度」の人数枠を拡大しました。

	(昨年度)		(今年度)
・ 奨学金授与額	約1億7千万円	→	約2億2千万円
・ 勤労奨学金制度人数	150人	→	157人

③学友会活動の活発化支援

部活動やサークル活動に参加する学生を拡大するため、入学式におけるクラブ紹介、新入生勧誘期間の延長、学友会説明会回数の増加、オープンキャンパスにおける「クラブ見学ツアー」などの取り組みを行いました。

	(昨年度)		(今年度)
・ 学友会団体参加率	40%	→	47%

④保護者への積極的な情報提供による連携強化

学生カルテ、学習ポートフォリオ等を活用した学生の個別指導の内容や授業の出席状況等の情報、また、学科のオリジナルサイトを通して、学部支援室等から保護者への情報提供を行いました。

また、保護者の大学へのニーズを詳細に把握するため、保護者対象のアンケートの実施や育星会※事務局と連携して育星会総会及び地区懇談会を開催しました。

※ 学生の保護者で構成する会

	(昨年度)		(今年度)
・ 育星会地区懇談会参加世帯数	728世帯	→	796世帯
・ 育星会地区懇談会参加者数	943人	→	1,081人

(3)初年次教育・支援体制の充実

全学共通初年次教育の必修科目である「自立と体験1」の科目担当教員に対する授業手法や教案理解に関する研修会の実施、授業運営に関する研修会の実施、授業運営に関する情報交換の機会の充実を図ることで、単位修得率が向上しました。

	(昨年度)		(今年度)
・ 「自立と体験1」単位修得率	91.0%	→	91.5%

(4) キャリア教育の充実と就職支援体制の強化

① キャリア教育の充実と全学的展開

昨年度から新たに設置した全学キャリア教育である「自立と体験3」「自立と体験4」では、教案及び教材の見直し等、科目の充実を図りました。

次年度以降、「自立と体験4」の履修者減少を鑑みて、学部学科での履修ガイダンスでの案内強化等、より多くの学生が受講するための取り組みを充実させます。

また、全学的キャリア教育体制を推進するため、キャリア教育担当の実務家教員（特任教員）の所属を学部から明星教育センターへと変更を行いました。

	(昨年度)	(今年度)
・「自立と体験3」履修者数	208人	→ 235人
・「自立と体験3」単位修得率	83.4%	→ 84.1%
・「自立と体験4」履修者数	408人	→ 203人
・「自立と体験4」単位修得率	91.0%	→ 91.5%

② 就職支援体制の充実

キャリアセンターを中心に、企業との接触機会の拡大や新たな業種別、目的別の講座・ガイダンスの開講等、就職支援体制の強化を図りました。

また、教職センターを中心に、教員採用試験対策として、これまで学年にかかわらず行っていた対策講座を、1・2年生を対象とした教員採用試験スタートアップ講座を学年ごとの目的別講座に変更し、また新たに理数系に特化した対策講座を実施する等、教員採用試験対策講座を充実させました。

	(昨年度)	(今年度)
・企業来訪・訪問件数	1,316件	→ 1,533件
・インターンシップ参加者数（延べ）	467人	→ 778人
・求人件数	5,125件	→ 5,981件
・上場企業進路決定率	8.8%	→ 13.3%
・教員採用試験名簿登載者数（5月1日現在の届出）	32人	→ 90人

【合同企業セミナー】



【出陣式】



(5) 教育の質的転換に向けた取り組み

①教育の質的転換に向けた取り組み（人材養成の目的に沿った授業運営の実践）

昨年度に見直しを行った学部学科の「人材養成の目的」に基づく、より体系的な学士課程教育を目指して、今年度はアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの見直しを行うとともに、教育課程の整合性について検証を進めました。

②科目のナンバーリング

現在、科目のナンバーリング作業を進めており、平成 26 年度以内には全ての作業が終了する予定です。

③FD 活動の推進

全学的な FD 活動は、「全学 FD 委員会」が企画・立案し、昨年度と同様に次のテーマで 2 回実施しました。

- ・ 7 月「アクティブラーニングによる授業実践」
- ・ 12 月「学生の主体的な取り組み報告」

また、部局別の FD 活動は学部長が中心となって企画・立案し、部局の専門性を考慮したうえで、「授業改善」を主なテーマとして実施しました。

④授業アンケートの活用による教育の質の向上

「学生による授業アンケート」の結果を授業改善に効果的に活用するため、ICT を活用したシステムを導入するとともに、アンケート項目の見直しを行いました。

ICT の導入により、科目ごとのアンケート項目の設定や、アンケート結果の即時集計が可能となり、アンケートがより有効活用できるようになりました。

今後は、ICT を活用した「学生による授業アンケート」を学生に周知することで、回答者数の増加を図ります。

	(昨年度)	(今年度)
・ 対象授業数	3,485	→ 4,116
・ 回答学生数（延べ）	93,447 人	→ 71,140 人

⑤大学院の充実と検討

各研究科・専攻の「人材養成の目的」を基に、教育課程の検証を行いながらアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの見直しを行いました。また、博士論文等の研究成果を広く社会に発信するため、学術機関リポジトリを設置しました。

⑥ボランティア活動への支援体制の充実

ボランティアセンターが保有する活動分野別に整理されたボランティア募集情報や、ボランティア団体の登録制度を通じた学外のボランティア情報を学生に周知することで、学生のボランティア参加促進を図りました。

また、昨年度に引き続き「東日本大震災」の被災地におけるボランティア活動とし

て、いわき明星大学と合同ボランティア研修を実施し、いわき市内における復興支援活動に2回参加しました。

なお、ボランティア活動と教育課程の連携を目的に、2014年度入学者を対象とした「ボランティア実践1・2」の設置に向けた準備を進めました。

	(昨年度)	(今年度)
・ボランティア活動参加学生数	4,143人	→ 4,944人
・学外ボランティア団体登録数	97件	→ 112件

【ボランティア活動】



2011年3月に起きた「東日本大震災」による被災地への組織的・継続的なボランティア活動を行っています。昨年は、いわき明星大学と合同で、清掃活動や仮設住宅への訪問等、2回の支援活動を行いました。

(写真は福島県いわき市フラワーセンターでのボランティアの様子)

(6) 大学の国際化の推進

外国人留学生の受け入れ拡大のため、海外学術提携校の新規開拓や在日日本語学校との指定校制度の拡大、本学教員の海外派遣、入学試験の出願資格に係る日本語能力の見直し等、留学生受け入れに係る取り組みを強化しました。

併せて、外国人留学生への支援として、日本語記述力講座やリメディアル授業の実施による日本語学習の支援や、留学生交流会や毎月行う個別面談など、個々の学生のニーズに即した支援を行いました。また、本学教員の海外派遣においては、日本語教師としてタイ王国へ1名の派遣を行いました。

	(昨年度)	(今年度)
・海外学術交流提携校数	41校	→ 42校
・留学生数【前期/後期】	25人/40人	→ 42人/44人
・認定留学派遣学生【通年/前期/後期】	15人/4人/2人	→ 19人/14人/12人

(7) 新たな附属教育研究機関の設置

発達障害に関する社会的な要望に応えるため、附属教育研究機関として発達支援研究センターを設置しました。平成25年度に設置準備を進め、平成26年度より本学の附属教育研究機関として出発しました。これにより、本学は発達障害研究機関としてそれに係る研究の充実を図るとともに、学内外へ発信することとなりました。

(8) 自己点検評価活動の推進と情報公開体制の充実

①自己点検評価活動の推進

MI21 プロジェクト活動の充実を図るため、今年度は全学戦略マップ及び全学バランスカードの見直しを行うことで、より効率的なプロジェクト活動を推進しました。

また、新たな学生支援の構築の準備として、GPA、就職内定率、SPI との相関関係、学力実態調査と入試結果の関係等、部署横断型の多角的な分析を行いました。

更に、今年度は学長の下に設置している「明星大学自己点検・自己評価基本方針策定委員会」での方針に基づき、各部局で策定した改善計画を推進し、2014（平成 26）年 7 月に大学基準協会へ提出する改善報告書の作成を進めました。

②情報公開体制の充実

2014（平成 26）年秋に本格稼働する大学ポータルサイトへ対応するため、掲載項目等の検討に着手しました。

また、学内基本情報の共有化を図るため、「大学ファクトブック（仮称）」の作成や学内基本情報の発信方法の検討に着手しました。

(9) 地域に立脚した教育の推進

大学が持つ知財を広く地域社会に還元するために、50 周年記念事業と連携しながら、より充実させた公開講座、学部学科のイベント、稀覯書展等を積極的に展開しました。併せて、大学図書館の地域住民への開放も、今年度より開始しました。

また、社会貢献の一環として、地方自治体との包括協定締結に向けての協議を進めました。

(10) 施設設備の充実

①改組改編等に伴う施設設備の充実

2010（平成 22）年度に開設した教育学部及び 2014（平成 26）年度開設のデザイン学部の教育環境を整備・充実させるため、2015（平成 27）年 2 月竣工予定の新棟 32・33 号館の建設事業を進めています。

また、本学が保有する稀覯書や歴史的資料を学生や研究者及び地域社会に公開できる環境を整備するため、2014（平成 26）年 9 月の竣工を目指し資料図書館の改修事業を進めています。

②教育環境を充実させるための施設・設備の整備

今年度、私立大学等教育研究活性化設備整備費補助金の採択により、学生の主体的な学びを促すための ICT 環境を備えたラーニングコモンズを整備しました。

また、学生の教育環境の充実を目指し、学生の持つスマートフォン等の様々な端末に対応するため、ネットワーク環境の整備を促進しました。

③クラブ活動の活性化のための環境整備

運動系クラブの学生支援の一環として、2014年2月に学生寮を竣工しました。

④地球温暖化対策

地球温暖化対策として今年度は、大学施設の照明設備のLED化を推進した結果、12月末までで電気使用量を昨年度比で95%に抑えることができました。

(11) 大学運営基盤の充実にに向けた組織改革の推進

①職員研修の充実

「仕事を通じて自分を育て、人を育てる職場環境」を基盤として、長期的視野にたった体系的・継続的教育の取り組みを行っています。

今年度は、各課の課長が中心となり立案する「部署別SD」の他に、管理職（課長）を対象とした研修や勤務経験の短い教職員を対象とした教職共同研修等、職位や経験年数に応じた職員研修を実施しました。

また、職員が大学院等へ進学する際の要件、及び経済的支援体制を整備し、より職員がスキルの向上を図ることができる支援体制を確立しました。

(昨年度) (今年度)

・部署別SD開催件数 38件 → 115件

②現行業務の抜本の見直し

学生支援業務や戦略的業務の推進体制を充実させるため、現行業務の抜本の見直しを推進しました。特に、通信教育部においては新たにコールセンターを設置し、これまでのルーチンワーク業務の削減を積極的に行いました。見直しの結果、今年度は昨年度比で10.4%の時間外勤務時間の削減を達成しました。

③全学的なコンプライアンス体制の強化やリスク管理の強化

個人情報管理の一貫として、大学保有の個人情報の学外への不適切流出を回避するために、大学で使用する各種様式の見直しを行いました。

また、コンプライアンス体制の強化の一環として、新たに利益相反マネジメント体制、安全保障輸出管理体制及び研究成果有体物に関する管理体制の整備を行いました。

(12) 50周年記念事業の推進

2014（平成26）年度に創立50周年を迎えるにあたり、本学の社会的使命について見直す節目ととらえ、ステークホルダーとのコミュニケーション活動を積極的に展開する機会と位置づけて、「『教育の明星大学』の具現化」「教育環境や学生生活環境の充実」「大学の知財の発信」を目的とした、各種事業を推進しました。

①公開講座

今年度は、4つのテーマで計7日間に亘り公開講座を行いました。

- ・ 「夏季講座～『源氏物語』とその時代～」(人文学日本文化学科)

- ・ 「秋季講座～『レ・ミゼラブル』とその時代～」(人文学部日本文化学科)
- ・ 「中国経済の現状と課題」(経済学経済学科)
- ・ 「子どもの育ちが危うい時代の子育てと教育とを考える」(心理相談センター)

②稀観書展

大学所蔵の文化的・歴史的価値の高い貴重書等を、50周年記念事業の稀観書展として開催しました。

第1回：江戸時代の科学～明星大学所蔵資料が伝える学問の熱気

第2回：ダンテ『神曲』

第3回：デカルトの手紙、カントの手紙

第4回：ZipanguからJapanへ～『東方見聞録』から『日本誌』

第5回：刊行400年ガリレオ・ガリレイ『太陽の黒点についての手紙』展

第6回：シーボルトがみた日本の自然～江戸時代の博物学～

第7回：小泉八雲に描かれた日野、青梅～ほどくぼ小僧と雪女～

③学生参加プロジェクト

学生や教職員が、「教育の明星大学」を具現化するイベントを自ら企画し、開催しました。

- ・ MEISEI ROCK FESTIVAL 主催：軽音楽部・フォークソング部・Liberty Bell

④奨学金基金のための募金活動

明星大学では、(1)日野校における新しい教育棟の建設(32・33号館)、(2)奨学金制度の充実及び留学生支援を目的に募金活動を行いました。募集期間は2014年1月から2016年3月までとなります。

⑤大学の社会的認知度の向上(50周年記念特別広報活動の推進)

本学の社会的認知度の向上及び「教育の明星大学」ブランドを確立するため、「教育の明星大学」をメインコピーとした6つの広告作品を制作し、日本経済、朝日、毎日、読売、東京新聞等の他、週刊誌、女性誌等に出稿するとともに、社会的認知度の向上のため、本学の歴史や教育方針とあわせて、大学創立50周年記念事業をマスコミやオピニオンリーダーに紹介するイベントを開催しました。

【受賞広告賞】

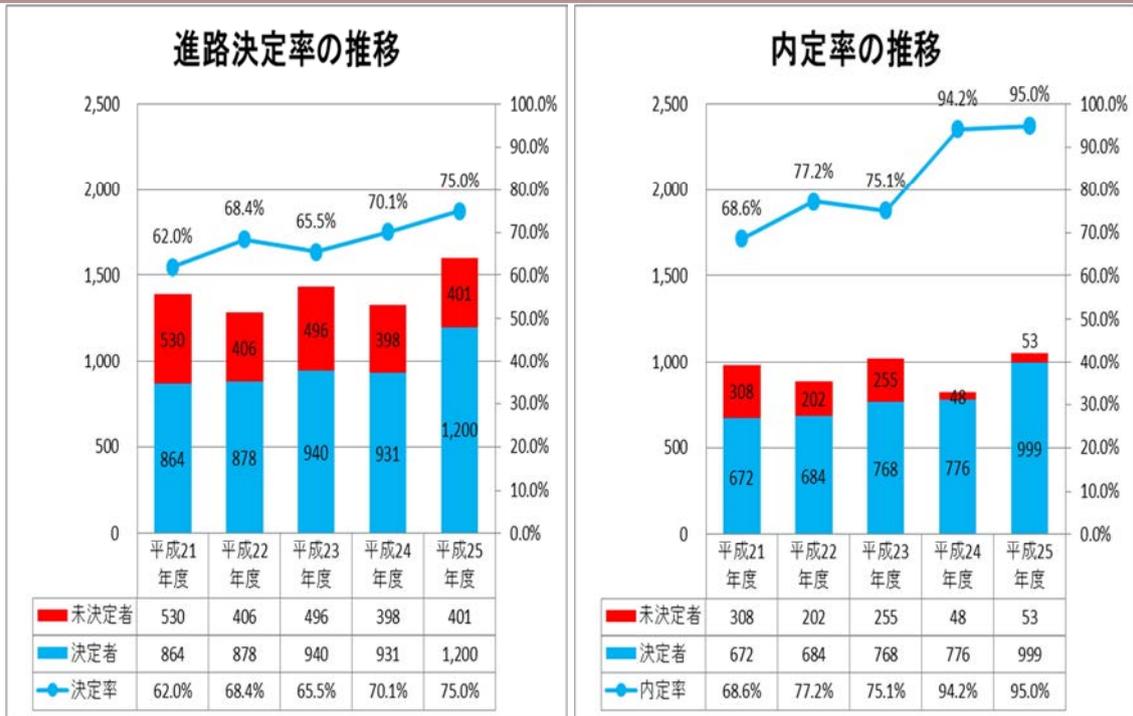
- ・ 毎日新聞社主催：『第81回毎日広告デザイン賞・第3部：広告主参加作品の部ー準部門賞(放送、教育)』
- ・ 光文社主催：『第47回読者がえらぶカラー広告コンクール(「女性自身」広告賞)』

明星大学 ロードマップ

2009(平成 21)～2013(平成 25)年度 経年推移表

- ・ロードマップ(1) 進路決定率
- ・ロードマップ(2) 志願者数
- ・ロードマップ(3) 離籍率 (留年率)
- ・ロードマップ(4) 科学研究費応募件数
- ・ロードマップ(5) 帰属収支差額比率

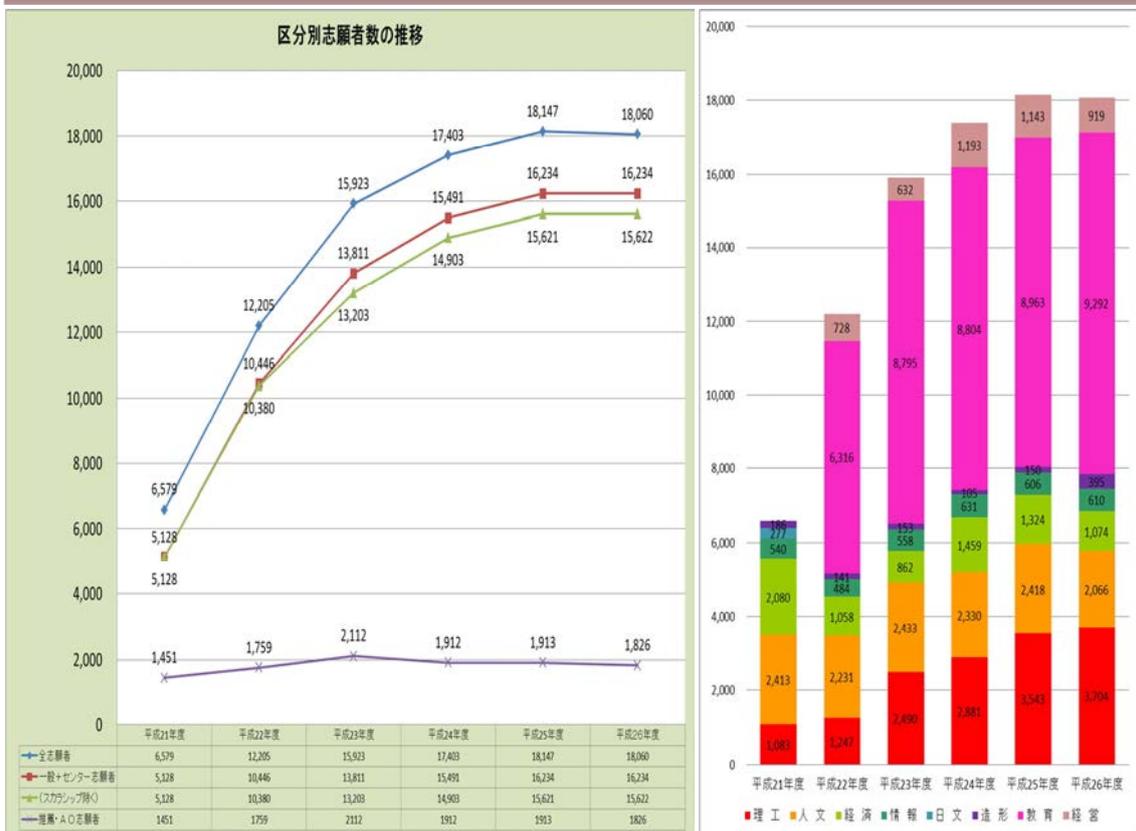
ロードマップ(1) 進路決定率



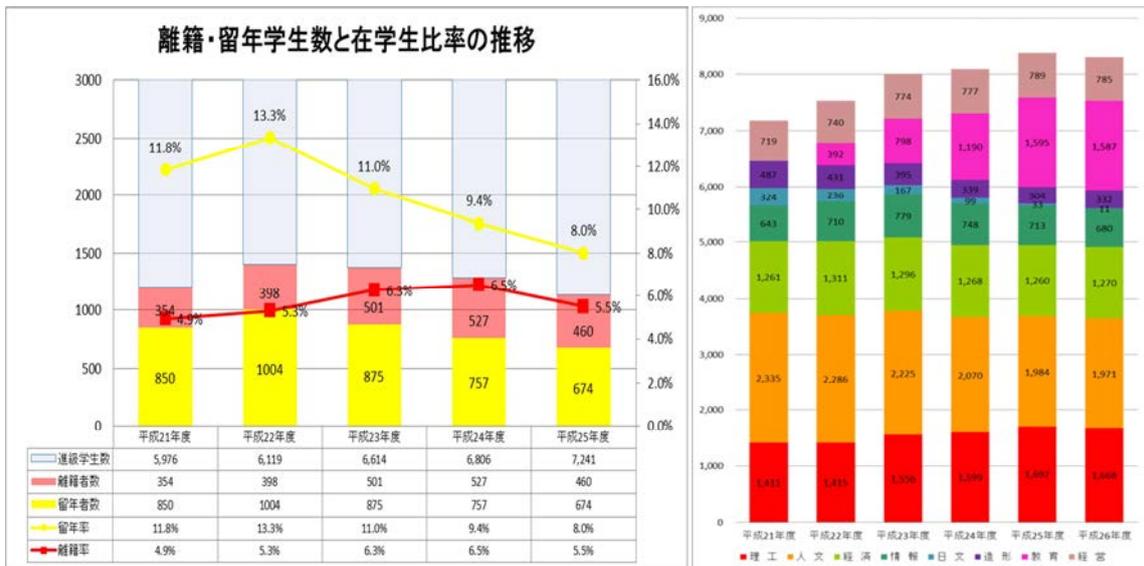
※進路決定率=進路決定者数/卒業者数

※内定率=就職決定者数/就職希望者数

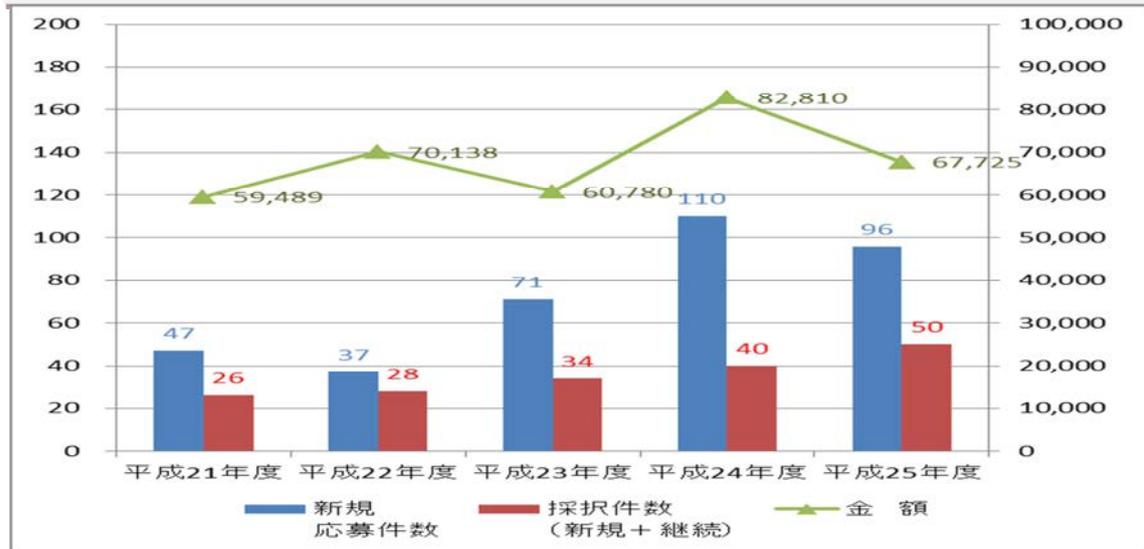
ロードマップ(2) 志願者数



ロードマップ(3) 離籍率（留年率）



ロードマップ(4) 科学研究費応募件数



ロードマップ(5) 帰属収支差額比率



卒業生の進路・就職状況

■明星大学

1. 就職・進学状況等

2013（平成25）年度学部卒業生数は、1,601名（9月卒業生を含む）でした。その内大学院進学者が53名、就職希望者は1,052名。就職決定者数は、999名と就職決定率は95.0%（5月1日現在）でした。

2. 卒業・修了、学位授与数等の状況

		学 部 学 科 等	学位授与者数
学 部	理工学部	総合理工学科	241
		物理学科	4
		化学科	4
		機械システム工学科	4
		電気電子システム工学科	6
		建築学科	8
		環境システム学科	9
		機械工学科	1
		電気工学科	0
		計	277
	人文学部	国際コミュニケーション学科	85
		人間社会学科	76
		心理学科	103
		日本文化学科	77
		福祉実践学科	30
		心理・教育学科 心理学専修	9
		心理・教育学科 教育学専修	8
		計	388
	経済学部	経済学科	235
		経営学科	143
		計	378
	情報学部	情報学科	98
		計	98
	日本文化学部	言語文化学科	14
		計	14
	教育学部	教育学科	347
		計	347
造形芸術学部	造形芸術学科	83	
	計	83	
		学部 合計	1,585
大学院	理工学研究科	物理学専攻博士前期課程	2
		物理学専攻博士後期課程	0
		化学専攻博士前期課程	4

	化学専攻博士後期課程	1
	機械工学専攻博士前期課程	3
	機械工学専攻博士後期課程	0
	電気工学専攻博士前期課程	1
	電気工学専攻博士後期課程	0
	建築・建設工学専攻博士前期課程	2
	建築・建設工学専攻博士後期課程	0
	環境システム学専攻博士前期課程	6
	環境システム学専攻博士後期課程	1 (単位取得済退学者)
	計	20
人文学研究科	英米文学専攻博士前期課程	3
	英米文学専攻博士後期課程	0
	社会学専攻博士前期課程	1
	社会学専攻博士後期課程	0
	心理学専攻博士前期課程	11
	心理学専攻博士後期課程	2 (論文博士2名)
	教育学専攻博士前期課程	2
	教育学専攻博士後期課程	0
	計	19
経済学研究科	応用経済学専攻修士課程	7
	計	7
情報学研究科	情報学専攻博士前期課程	1
	情報学専攻博士後期課程	0
	計	1
大学院 合計		47
学部・大学院 総計		1,632

3. 主な内定企業先 (2013 (平成 25) 年度)

(理工) 東日本旅客鉄道、関電工、関東電気保安協会、大成建設、前田道路、竹中道路、東亜道路工業、オンワード樫山、トランスコスモス、セントラル警備保障、日本ハウズイング、タマホーム、公立高等学校教諭、警視庁など

(人文) 日本郵政、日本郵便、西武信用金庫、多摩信用金庫、日本通運、積水ハウス、ヒューマントラスト、ベネッセスタイルケア、ニチイケアパレス、東京都社会福祉事業団、公立小学校教諭、法務省、防衛省、東京都庁、警視庁、神奈川県警察本部、横浜市役所など

(経済) 四国銀行、日本郵便、損害保険ジャパン、伊藤園、文化シヤッター、鹿島道路、船井総合研究所、総合警備保障、最高裁判所、防衛省、東京消防庁、八王子市役所など

(情報) 日本郵政、日本郵便、チヨダ、アイレックス、警視庁など

(造形芸術) イオンファンタジー、アパグループ、カインズ、タマホーム、東京ア
ートなど

(教育) 公立小学校教諭、公立中学校教諭、公立特別支援学校教諭、東京地下鉄、
埼玉県警察本部、茨城県警察本部、大田区役所など

■いわき明星大学

1. 就職・進学状況等

2013（平成 25）年度卒業生総数は、365 名でした。その内、大学院等進学者が 8 名、
就職希望者数は 300 名。就職決定者数は 270 名となり、就職率は 90.0%（4 月 1 日現
在）でした。

2. 卒業・修了、学位授与数等の状況

学 部 学 科 等			学位授与者数
学 部	科学技術学部	科学技術学科	117
	人文学部	心理学科	71
		現代社会学科	63
		表現文化学科	68
	計		202
薬学部	薬学科（6 年制）	46	
合 計			365
大 学 院	理工学研究科	物質理学専攻修士課程	3
		物理工学専攻修士課程	4
		物質理工学専攻博士課程	0
		計	7
	人文学研究科	日本文学専攻修士課程	0
		日本文学専攻博士課程	0
		英米文学専攻修士課程	0
		社会学専攻修士課程	2
		臨床心理学専攻修士課程	6
	計		8
	大学院 合計		
学部・大学院 総計			380

3. 主な内定先企業(2013（平成 25）年度)

薬学部の主な内定先は、学校法人医学アカデミー、株式会社インテリム、かしま病
院、カメイ株式会社、筑波大学附属病院、東北労災病院、福島労災病院、北海道大学
附属病院などです。

科学技術学部の主な内定先は、京西テクノス株式会社、クリナップ株式会社、常磐
共同火力株式会社、昭和アステック株式会社、東京電力株式会社、東北アヲハタ株式
会社、株式会社ミライト、株式会社ヨークベニマルなどです。

人文学部の主な内定先は、会津若松市役所、いわき市役所、クリナップ株式会社、

積水ハウス株式会社、株式会社大東銀行、株式会社ニトリ、福島県人事委員会、株式会社みずほ銀行などです。

■明星中学高等学校

1. 中学校卒業者の進学状況

2013年度中学校卒業生総数 173名。そのうち、明星高等学校進学者は154名、他校進学者は19名。

2. 高等学校卒業者の進学状況

2013年度高等学校卒業生総数 302名。そのうち、4年制大学現役進学者は228名、短期大学進学者は7名、専門学校進学者は19名、進学準備他は45名、就職は3名。

3. 主な合格実績大学(2013(平成25)年度)

(国公立) 筑波大学、鹿児島大学、都留文科大学

(私立) 早稲田大学、慶應義塾大学、上智大学、東京理科大学、明治大学、青山学院大学、中央大学、法政大学、学習院大学、日本大学、東洋大学、駒澤大学、専修大学、北里大学、國學院大学、芝浦工業大学、昭和薬科大学、白百合女子大、成蹊大学、成城大学、多摩大学、玉川大学、帝京大学、東京経済大学、東京工科大学、東京電機大学、東京女子大学、東京都市大学、東京農業大学、東京薬科大学、同志社大学、獨協大学、日本女子大学、明治学院大学、明星大学、武蔵大学、立命館大学

■明星小学校

2013年度卒業児童総数 110名。そのうち、明星中学校進学者は71名、他校進学者は39名です。

■明星幼稚園

2013年度卒業園児総数 89名。そのうち、明星小学校進学者は34名、他校進学者は55名です。